



勇気と愛は海を越える

チェスボローカップ 水泳駅伝大会



勢いよくスタートする選手たち



ゴールに向かって力泳



次の泳者にバトンタッチ



泳いだ後はメロンで水分補給



仲間に声援を送る選手たち

チェスボローカップ2016が8月7日、マリアビーチ（富港町）で開催されました。

この大会は参加者全員の泳いだ距離を合計し、つがる市と姉妹都市米国メーン州バス市との直線距離1万2000^キを泳ぎつなぐことを目標に毎年開催されています。27回目を迎えた今年は県内外から参加した28チーム155人が熱戦を繰り広げ、合計で75・63^キを力泳。通算距離は5600・95^キで、目標まで残り4599・05^キとなりました。

クラス	優勝	タイム
オープン 1000m×5	ディスの極みメガネ （弘前市）	1時間 24分06秒
ハーフオープン 500m×5	チーム よねや りくと （弘前市）	32分12秒
シニア 500m×5	八戸スイマーズメロン ゲッツ！（八戸市）	36分08秒
レディース 500m×5	スーパー肩幅ブラザーズ （弘前市）	41分20秒
ジュニア 100m×5	ひないー姫四太郎 （大館市）	08分56秒
エキシビジョン 500m	大久保 希（七戸町）	08分05秒
エキシビジョン 100m	Madelyn Jones-Cressey （バス市）	02分38秒



バス市代表の選手宣誓



スタッフとして車力小児童が協力



全員そろってゴール（ディスの極みメガネ）



大会後に「チェスボローカップ！」の掛け声で思いを未来へつなぐ



夜の歩行者天国で商店街にぎわう

7月22、23日、木造地区の有楽町・千代町商店街で夜店まつりが開催されました。これは商店街の活性化を図ろうと毎年行われているもので、今年で8年目を迎え、地域の夏の風物詩として定着しています。

歩行者天国として開放された路上では、バルーンアートやマジック、ダンスパフォーマンス、ジャズ演奏などがあちこちで繰り広げられ、見物客を魅了。また、ビアガーデンやさまざまな露店も並び、多くの市民らでにぎわいました。

市内から来たという子ども連れの男性は「何年かぶりに来たが、人出が多くて驚いた。普段は商店街が静かなので、どんどん元気になってほしい」と話していました



観客を魅了した地元「女舞姫」のよさこいソーラン
小さい子も一生懸命踊りました



大盛況だったビンゴゲーム

盛りだくさんのイベントを満喫

むらおこし拠点館活性化推進協議会（工藤嘉津彦会長）による「フラット夏まつり」が7月31日に開催され、多くの来場者が祭りを楽しみました。

15回目を迎える今年は工藤まんじー一行による三味線ショーや、よさこいAOMORI花嵐桜組の演舞が観客を魅了。また、ジャグリングショーや生バンド演奏、ビンゴゲームや盆踊りなどさまざまなイベントが行われ、訪れた家族連れが楽しい1日を過ごしました。市外から孫を連れて遊びに来たという男性は「朝はすごい雨だったが、いい天気になってよかった。じゃんけん大会やビンゴなど参加できるイベントが多くて孫も楽しんでいる」と話し、祭りの雰囲気を楽しんでいました。

やぐらを囲んでにぎやかに

8月20日、イオンモールつがる柏駐車場で「つがる市盆踊り大会」が開催され、約1,200人の市民らが交流と親睦を深めました。はじめに成田昭司実行委員長が「雨雲を払うように楽しく踊ってください」とあいさつ。やぐらの上では、市内外から訪れた25団体が工夫を凝らした衣装で組踊りを披露。やぐらの下では、大人も子どもも二重三重の大きな輪になって柏音頭などに合わせて心地よい汗を流していました。

また、合併10周年を記念して作られたつがる市民の歌の「つがる市民音頭」を、連合婦人会が息の合った踊りでお披露目。フィナーレでは、夜空を彩る花火が打ち上げられ、短い夏のひとときを楽しんでいました。



踊りを楽しむ参加者



遮光器土偶を説明する木造高生ガイド

世界文化遺産登録への機運高める

NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史会長）が主催する「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり2016」が8月20日、木造館岡地区で開催されました。午前は「田小屋野貝塚ウォーク」が行われ、約70人が参加。木造高校の生徒による解説を聞きながら、田小屋野貝塚や亀ヶ岡遺跡の周辺を散策しました。午後は市教育委員会の佐野学芸員によるガイドで縄文館を見学。館岡コミュニティ消防センターでは、三内丸山応援隊の協力による「勾玉づくり・土偶づくり体験」などが行われ、参加者は縄文文化への理解を深めている様子でした。川嶋会長は「縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指して、より多くの市民に関心を持ってもらえるよう活動を続けたい」と話していました。

姉妹都市交流で相互理解を図る

バス市訪問団がつがる市にホームステイ

8月4日から14日までの11日間、姉妹都市である米国バス市の訪問団15人がつがる市に滞在し、ホームステイや交流イベントを通して友好を深めました。8月5日、市役所を訪れた一行は福島市長と対談。訪問団長のベッツィー・バリアンさんは「異文化での生活を体験することで、自国文化の理解をより深めることができる。この貴重な交流がこれからも続くことを願う」と話していました。滞在中は、かるたや武道、茶道など日本の文化を体験。また、チェスボローカップ参加など、ホストファミリーや市民と交流を深めながら、日本の夏を満喫しました。



木造高校かるた部でかるたを楽しみました



剣道を体験



箸も上手に使います

柏市でサッカードリーム事業

千葉県柏市で7月22日から24日、サッカードリーム事業が開催されました。これは柏市を拠点とするサッカーJリーグ所属クラブ「柏レイソル」の協力により、つがる市姉妹都市協会が実施しているもので、つがる市内の5、6年生16人が参加。参加した児童は、普段入ることができない日立柏スタジアムのロッカールームやVIPルームなどの見学、スタジアムでの試合観戦などを体験し、夢を育みました。



スタジアムでの記念撮影

白老町児童がつがる市を訪問

8月8日から10日までの3日間、北海道白老町の児童13人がつがる市を訪問。滞在中は縄文資料館カルコや三内丸山遺跡などを訪れ、歴史や文化に触れました。また、マグアビーチではライフセーバーによる海水浴指導やスイカ割りなど、楽しい時間を過ごしました。



ライフセーバーと一緒に“シャカ”ポーズ

白老町の歴史と文化を学ぶ

8月1日から3日までの日程で、市内の小学5年生22人が、北海道白老町を訪問し、姉妹都市について見聞を広めました。児童たちはアイヌ民族博物館で、白老町の歴史や文化を学習。アイヌ伝統の民族楽器「ムックリ（口琴）」作りや踊りを楽しみました。白老町児童との交流会では、スポーツやゲームをしながら、お互いの交流を深めました。



アイヌ民族博物館で記念撮影

大舞台での抱負を語る

バレーボール 稲垣中男子バレーボール部



県中学校体育大会 優勝
東北中学校体育大会 準優勝
◎全国大会出場（富山県）

主将・三上弘洋君（写真後列左から3人目）
「1勝でも多く勝てるように、全力でがんばりたい」

柔道 車力中柔道部



（左2人目から）大西さん、石澤さん、工藤君

県中学校体育大会個人戦

【男子60kg級】1位：工藤大和（3年）
【女子52kg級】2位：石澤優菜（3年）
【女子44kg級】2位：大西愛花（2年）

◎いずれも東北大会出場（福島県）

◎全国大会出場（新潟県）：工藤大和

工藤君「東北大会優勝、全国大会ベスト8以上を目指す」

石澤さん「悔いが残らないように思いきり技をかけて優勝したい」

大西さん「仲間と練習してきた技を試合で出せるようがんばる」

相撲 木造中相撲部、柏小



（前列）柏小学校 （後列）木造中学校相撲部
（後列左から2人目）小関拓道君（前列左）小関諒道君

県中学校体育大会

【団体】優勝：木造中学校

全国中学校相撲選手権大会 県予選会

【個人】2位：小関拓道、3位：鳴海匠馬

◎いずれも全国大会出場（石川県）

主将・小関拓道君「団体・個人で優勝を目指す」

県小学生相撲大会

【団体】3位：柏小学校【個人】1位：小関諒道

◎いずれも東北大会出場（福島県）

主将・小関諒道君「入賞できるようにがんばる」

吹奏楽 森田小吹奏楽部



全日本吹奏楽コンクール県大会 金賞

◎東北大会出場（福島県）

部長・古川華穂さん（写真後列左から3人目）

「みんなで練習してきたことを全部出し切って、最高の演奏ができるようにしたい」

市町村対抗県民体育大会 つがる市選手団が奮闘



団体競技で優勝した相撲選手団

第71回市町村対抗県民体育大会が7月30日と31日の2日間に渡り開催され、各会場で熱戦が繰り広げられました。つがる市選手団は相撲競技での優勝をはじめ、各競技で優秀な成績を修めました。

主な成績

（団体競技）【優勝】相撲【第2位】バレーボール（ママさん）、バスケットボール、サッカー【第3位】バレーボール女子、ソフトボール男子、ソフトボール女子、水泳女子、ボウリング、銃剣道

（個人およびリレー競技）【第1位】男子砲丸投げ：永田徳美、水泳50m背泳ぎ（30歳以上）：木村友哉、水泳50mバタフライ（30歳以上）：木村嘉孝、水泳男子200mメドレーリレー（30歳以上）